

# 北東アジア政策懇話会 第4回研究フォーラム

10/16

NPO北東アジア輸送回廊ネットワーク(NEANET)と(一財)みなと総合研究財団(みなと総研)は、

10月16日(金)午後4時から、北東アジア政策懇話会・第4回研究フォーラムを開催した。

講演に先立ち、主催者の吉田進NPO北東アジア輸



東山講師

根本みなと総研業務執行理事

吉田NEANET会長

送回廊ネットワーク会長が「雨の中で参集いただき感謝申し上げます。一昨日まで上海と南京を訪問してきました。『中国の経済が前年比6割台になり大変だ』李克強総理は、統計数字を信じず、電力消費鐵道貨物量と銀行融資の動きを見て経済の判断をしている。実際はもっと悪いのではないかと日本の新聞は報道していますが、現地の上海では、ビル建設は相変わらず進んでいます。然し南京への途中の衛星小都市では建設を中止している建物を見かけました。国慶節の直後だが、国内の観光客の流れはまだかなり大きいです。会った人々から受けた印象は、生活水準が向上し、みんなどっしりと構えています。その背後には第3次

産業と第2次産業の比率の変化があります。これが中国の『新常态』への移行時の現象です。経済の停滞と言っても7・9月が6・9日、日本と比べると伸び率は大きいです。われわれNPOとして今後とも中国経済の動きを注視していかなければなりません。今日は、觀察の土台となるわがNPOの動向を東山講師に報告してもらいます」とあいさつをして、根本康王みなと総研業務執行理事が「本日はありがとうございます。講師のお話を基に、意見交換会でも討論して下さい」と、あいさつをした。

続いてNPO北東アジア輸送回廊ネットワーク理事である東山茂JFEエンジニアリング顧問が「北東アジア交流白書」についてのテーマで講演した。まず東山氏は、「昨年1月に新潟で開催されたNPO設立10周年記念シンポジウム開催を契機として『これからの10年』に向けての

新企画の一つとしてこの白書の編集を開始しました。今後、益々重要度を増す環日本海交流・北東アジア交流に係る諸活動についての包括的情報発信を考えていきたい」と述べ、本白書が会員及び関係者による寄稿文・提供情報集約型による編集であり、今後も継続的に対応していくこととしていること等をコメントした。

版平成26年度の取り組みを取りまとめ、その公開方法としては、同NPOのホームページ上(※)にアップしていることを紹介した。

\* <http://neanet.jp>

次に、本年6月に取りまとめられた白書第2版の内容容について「北東アジア交流促進の鍵は何か」と題して解説した。

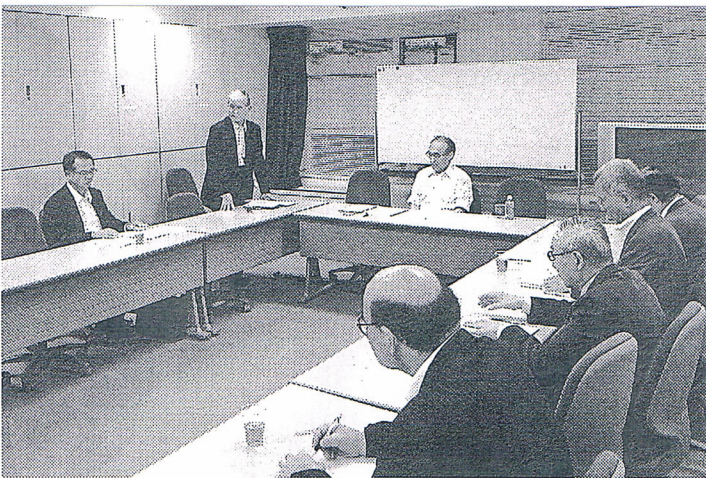
白書の構成内容は、会員等からの報告、国・自治体・関係団体からの情報、交流実績一覧、港湾統計・入管統計データ及びNEANET

ETのあゆみ年表であることと紹介するとともに、若干の補足資料を用いながら説明し、その中から、今後の北東アジア交流促進の鍵を探った。

講演後の意見交換では、参加者間において「日本海側拠点港の更なる展開」「日口物流ルート今後の展望」「環日本海エリアにおけるエネルギー関連物流の動向」「アジアからの訪日観光客の急増への対応」等について熱心な議論が行われた。

次回研究フォーラムについては以下のとおり。

◎第5回11月18日(金)講演 午後4時  
講演者 鈴木勝共栄大学 客員教授  
演題 「観光立国ニッポンへの道―これだけの道―」  
か(現状と課題)―」  
◆問い合わせ・申し込み先  
・ [wavemaster@wave.or.jp](mailto:wavemaster@wave.or.jp)  
TEL03-5408-8291  
・ [neanet@oboe.ocn.ne.jp](mailto:neanet@oboe.ocn.ne.jp)  
TEL03-3462-1123



第4回北東アジア政策懇話会研究フォーラムの様